

## 第 2 章

景観形成の基本方針

## 第2章 景観形成の基本方針

## 1. 千歳市の景観特性

「ちとせ都市景観ガイドプラン」をふまえながら、千歳市の景観特性をまとめます。

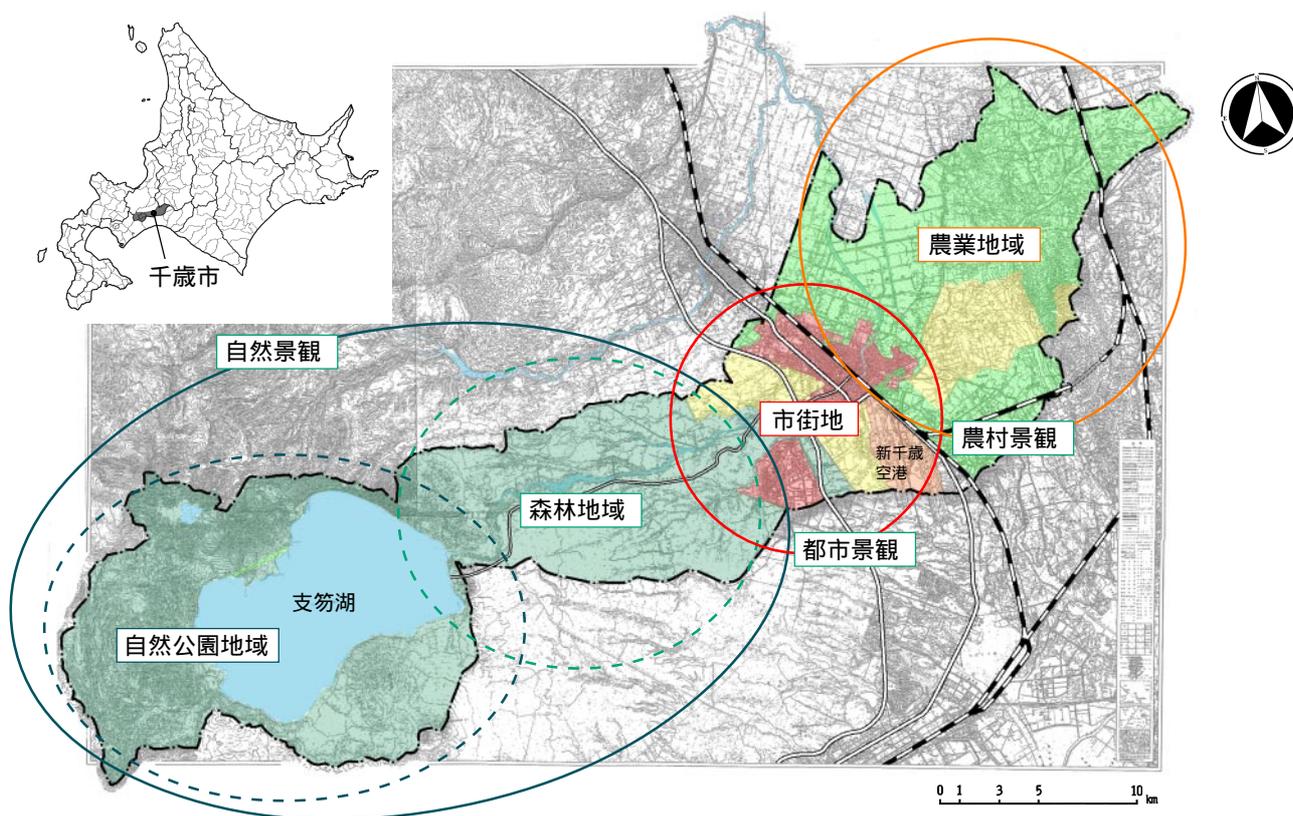
## 1) 位置・地形・気候

千歳市は、北海道の中南部に位置し、札幌市・苫小牧市など3市5町1村に接しています。市域は東西に長く西高東低の地形です。市域の中央部はほぼ平坦な地形で、市街地をはじめ飛行場、自衛隊駐屯地、農用地などに利用されており、東部は畑作や稲作を中心とした農林業に利用されています。

また、西部は国立公園として指定されている支笏湖地区で、樽前山(1,041m)や恵庭岳(1,320m)など1,000m級の活火山が連なる山岳地帯を形成しています。

本市を流れる河川としては、千歳川水系の河川と安平川水系の美々川などがあり、西側の山地に支笏湖とオコタンペ湖、市街地南東側の美々川上流には千歳湖があります。

気候については、太平洋と日本海の気象の影響を受ける分岐点に位置しており、夏季の最高気温は30度程度、年間の平均気温は6度から8度で、内陸型のしのぎやすい気候となっています。また、梅雨や台風の影響も少なく年間の降水量は800mmから1,200mm程度で降雪量も道内で少ない地域です。



2) 自然景観

千歳市の西部には、原始的な自然につつまれた国立公園の支笏湖や、樽前山・恵庭岳などに連なる山岳・丘陵地、他市町村へと広がる国有林があり、これらが一体となって、道内でも有数の雄大な自然景観を形成しています。

市域面積の約56%を占める森林の植物帯としては、針広混交林帯で亜寒帯針葉樹林と温帯広葉樹林が併存しています。支笏湖周辺の国有林山岳地帯ではトドマツ・エゾマツなどの針葉樹林が広がり、その森は市街地まで続き、低地になるほど広葉樹林の占める割合が多くなっています。全森林の約67%が天然林を占めていることが特徴です。

山麓地帯に多く見られるシラカバとカツラは千歳市の木になっており、特に支笏湖へ至る道路はシラカバ街道とも呼ばれています。

千歳は周辺の市と比較すると一人あたりの山林面積が多くなっていますが、近年では市街地やその周辺の開発、人口の増加による都市化が進み、市街地周辺の森林が減少しています。



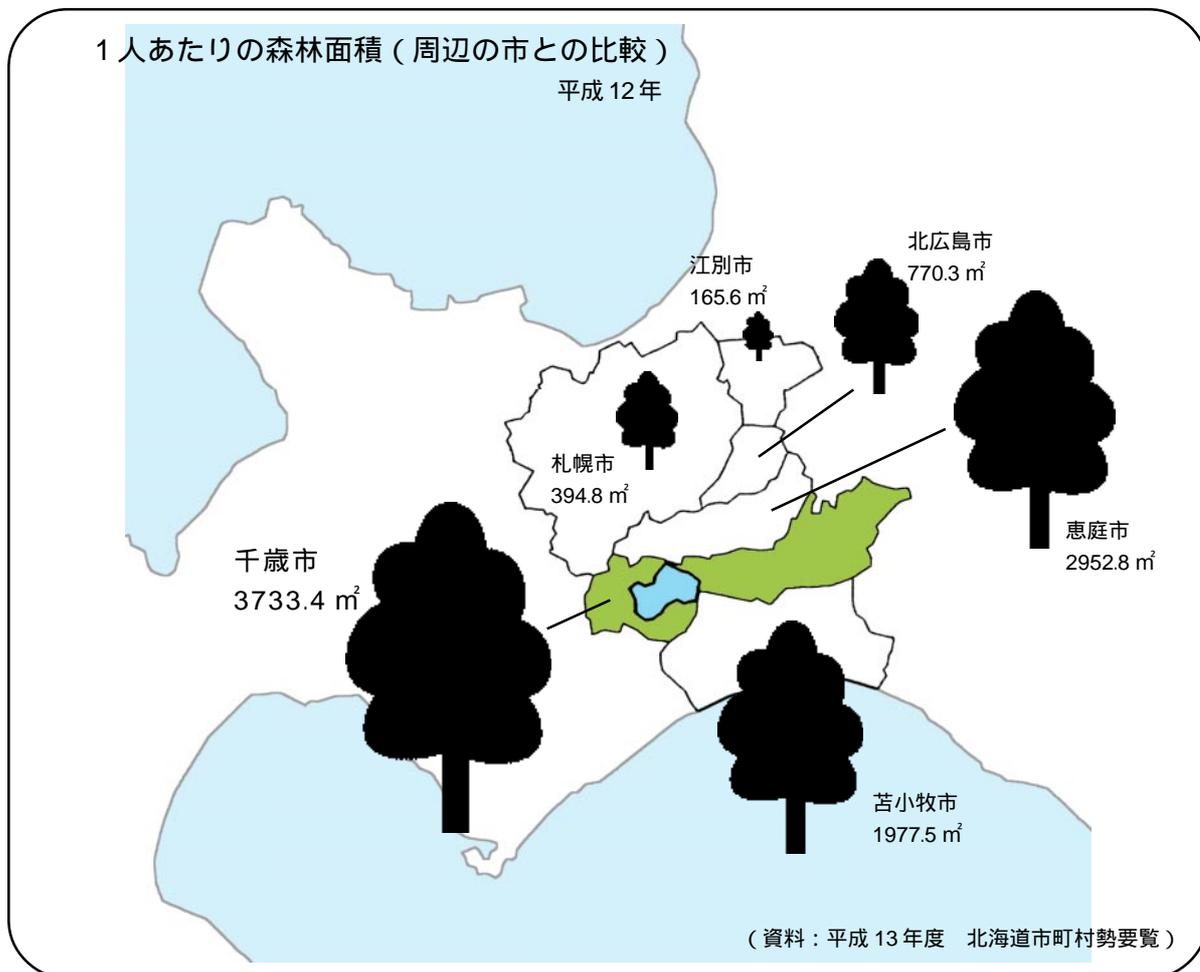
支笏湖



樽前山



千歳川



### 3) 農村景観

千歳市の景観を代表する丘陵地や農地は、千歳市の北東部に広がっています。市街地の近くで見られる農村景観は、市民にとって身近なものとなっています。農家屋敷林や耕地防風林の連なり、遠くの山々など大きな魅力を持つ北海道らしい景観といえます。

「北海道農林水産統計年報」によると平成12年2月における千歳市の農家戸数は338戸、そのうち専業農家は約52%（175戸）、耕地面積は田が646ha、畑が5,910ha、計6,556haで1戸あたり約19haとなっています。

畑作の割合が非常に高く、耕地面積が広い規模の大きな農家が多くなっています。作付面積の大きな作物は、大豆・小豆・いんげんの豆類（1,013ha）小麦（1,010ha）てんさい（761ha）などとなっており、高い生産量を誇っています。また、畜産業も盛んで、乳用牛飼養頭数、生乳生産量、肉用牛出荷頭数、鶏卵出荷量といずれも石狩管内一となっています。

千歳は周辺の市と比較すると一人あたりの田畑面積が多くなっています。



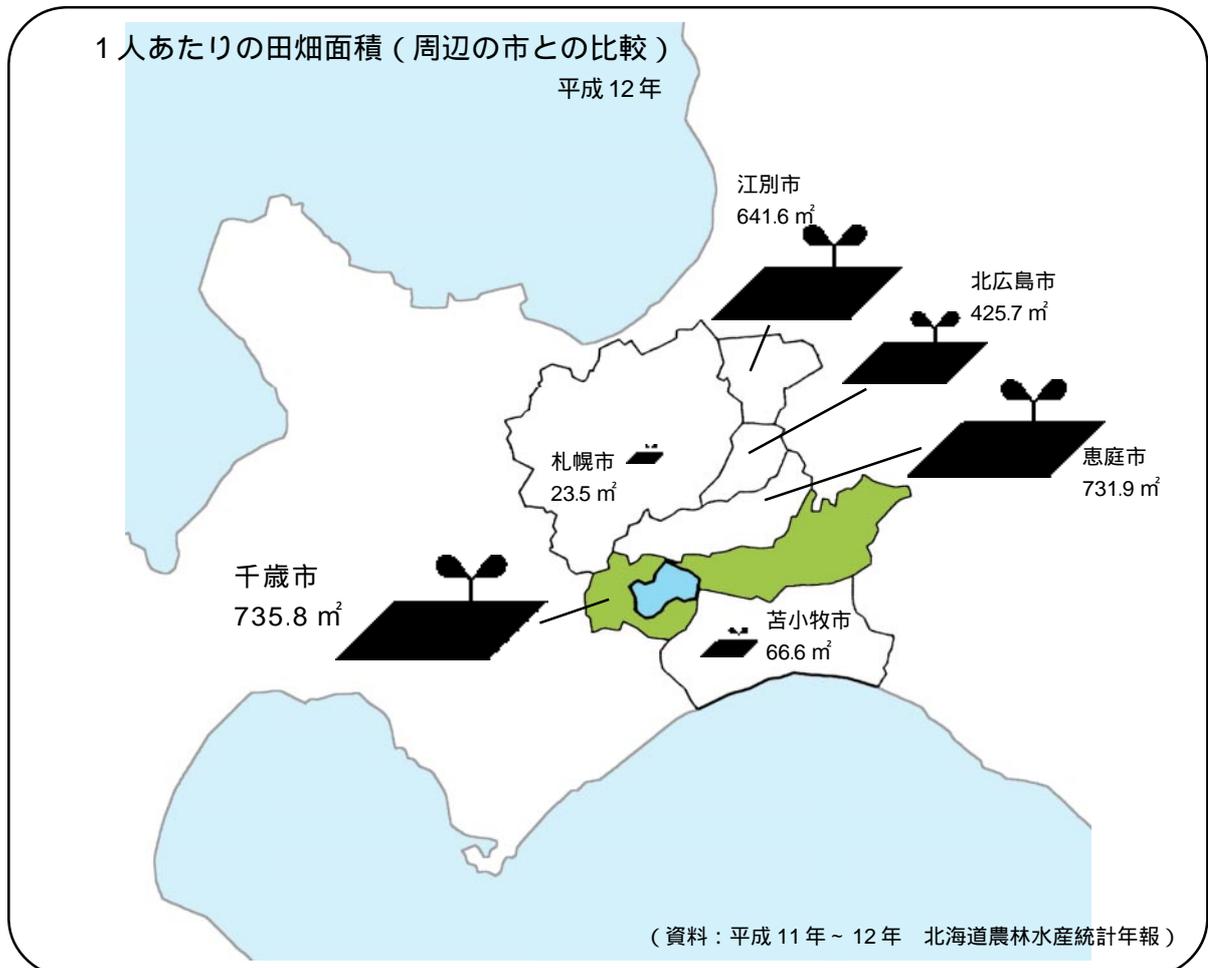
ひまわり畑



農村景観



冬の農村景観



## 4) 風土・歴史

## 【先人たちの豊かな生活を残す風土】

千歳は古くから自然の恩恵を受け、その地理的な背景を生かして人々が営みを続けてきました。川は魚たちや流域の草木、山間の動物たちを育み、先人の暮らしを豊かなものとしていました。江戸の時代にもサケは重要な水産資源として全国的に流通し、陸上交通が盛んになる以前、千歳は日本海と太平洋を結ぶ水上交通の拠点であり、水産物や木材などの物資が千歳川や美々川を往来していました。現代でも、千歳川で水遊びをし、釣り糸をたれた思い出や川を利用して生活していた様子は、長く千歳に住む人たちの原風景であり、観光資源としても貴重な支笏湖に代表される自然環境や市の東部に広がる農村景観は市民の心のよりどころとなっています。



千歳橋（大正8年）



千歳川（昭和29年頃）

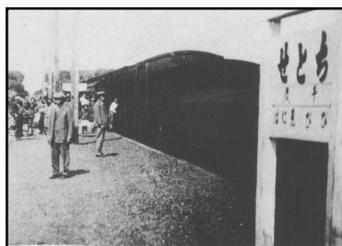


現在の市街地の様子

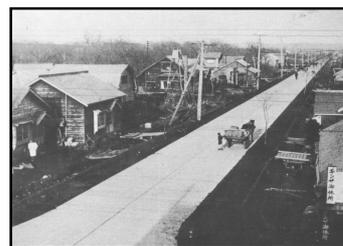
## 【交通の要衝としてのまちなみ】

北海道開拓の始まりとともに、後に国道36号となる室蘭街道が整備され、市街地は国道と千歳川が交差する付近から広がり始めます。住民の奉仕活動により新千歳空港の基礎となる飛行場が大正時代に建設され、現在はJR千歳線となっている鉄道が同時期に敷設されたことは、昭和期以降、空陸交通の要衝として、また、基地の町としてその後の千歳の発展を促しました。

千歳市のまちなみは、このように都市基盤の充実を背景とした市勢の発展とともに移り変わってきました。昭和15年以降は駅大通や中央大通などの主要な道路と土地区画整理事業の都市計画を定めるなど、既存市街地のほとんどが昭和30年代までに現在の区画に整えられました。青葉公園は昭和28年に総合公園となり、市街地内にあつて原生林が残る貴重な緑地として、これまでも変わらず市民の憩いの場となっています。昭和40年代からは交通便利性や良質な水資源を生かして、大規模な工業団地の造成が進み、地域に密着した工場立地により、工業都市として新たな歩みを始めました。現在、千歳市は各地から多くの人々が集まり、暮らし、行き交う国際交流都市として発展を続けています。

千歳村の滑走路上の北海1号機  
（大正15年頃）

千歳停車所構内（昭和10年）

道内最初に敷設されたコンクリート舗装道路  
（駅前通り・昭和16年）

## 5) 景観構造から見た都市景観

軸的景観（道路軸・河川・緑地軸の景観）

## 【道路軸】

千歳市は、古くからの交通の要衝であり、現在も新千歳空港を核として道内の主要都市を結ぶ広域的な道路体系、交通体系の整備が進められています。

千歳市の街路樹は、都市計画道路等の比較的新しい道路で計画的に整備が行われており、電柱の後退など、潤いある沿道景観が形成されています。特に千歳市内の都市内幹線道路（主要な市道）には、街路樹の整備が進んだ道路が多く、良好な沿道景観を演出しています。

## 道路軸景観を形づくる特徴的な要素

道路の緑化 (街路樹)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街路樹により道路の緑化が進み、美しい景観をつくっています。</li> <li>・市道の街路樹としてアカエゾマツ、ナナカマド、イチョウ、シラカバ、カツラが多く使用されています。</li> </ul> <p>(街路樹の状況はP.27を参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市道植栽としてニシキギ、サラサドウダンツツジ、ドウダンツツジが多く使用されています。</li> </ul>
----------------	--

## 【河川・緑地軸】

千歳市は、国立公園である支笏湖を水源とする清流千歳川をはじめとして、大小の河川がまちなかに水辺空間を形成し、河川沿いの緑地がみどりの景観軸をつくりだしています。

市街地を流れる千歳川とママチ川については、広く市民に親しまれる憩いと交流の場としての活用促進が望まれますが、現在の千歳川をはじめとする市街地の一部の河川では、護岸整備の進行とともに親水性を失いつつあります。

千歳川の千歳神社から上流域と、サーモンパークから下流域には、自然のままの河岸風景が展開しています。

また、市街地の外縁部には直線的な防風林が、みどりの景観軸を形成しています。

## 河川・緑地軸景観を形づくる特徴的な要素

河畔の樹林	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千歳川、ママチ川、勇舞川、長都川、ゴセン川、美々川などの河川軸には、大径木からなる自然林など貴重な自然環境が残っています。</li> <li>・祝梅川河畔にはヤチハンノキを主とする湿原植物群落が広がっています。</li> </ul>
防風保安林	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミズナラ、シナノキ、イタヤカエデ等の大径木からなる自然林の防風保安林が見られます。</li> </ul>
自然林の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青葉公園・グリーンベルト・北栄緑地など公園として利用されている身近な自然林があります。</li> </ul>

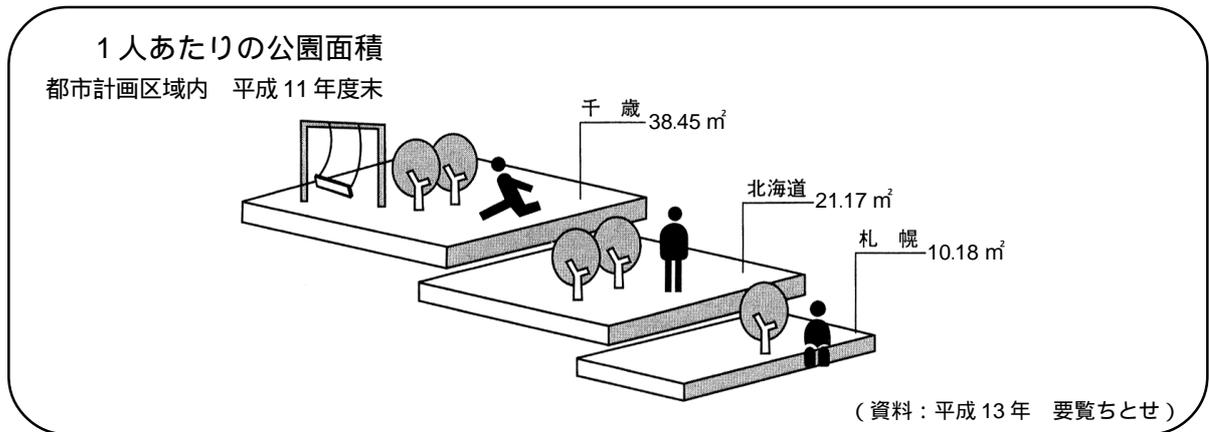
拠点景観（公園・広場・建築物・構造物の景観）

【公園・広場】

千歳市には、青葉公園・青空公園・美々公園に代表される大型の都市公園のほかにも、大小さまざまな公園が、市街地に点在しています。

特に青葉公園と青空公園は、千歳市民全体のみどりのシンボル空間として、スポーツ・レクリエーション・文化の活動拠点と位置づけられています。また、市街地の中央には市民の憩いと活動の広場として、グリーンベルトが整備されています。

都市計画区域内の市民1人あたりの公園面積が高くなっています。平成13年4月1日現在では160箇所の公園が開設されており、面積は348.88haです。1人あたりの公園面積は、39.65㎡と増加傾向にあります。平成11年度末の比較データを下記に示します。



【建築物・構造物】

千歳市の拠点とされる建築物・構造物としては、千歳市民だけではなく、多くの人々が集まる場所として、新千歳空港、JR千歳駅、サーモンパーク、各種公共施設等があげられます。

拠点としての建築物・構造物については、建物本体だけではなく、本体を含む周辺環境のあり方が景観形成に重要な役割を担うことから、拠点における広場や緑地、駐車場等の整備内容・整備手法についての検討が必要となります。

拠点景観を形づくる代表的な施設

新千歳空港	・新千歳空港アクセス沿道景観形成ガイドラインにより、周辺の景観形成を図っています。
JR千歳駅	・樹木・花壇による潤いの演出や、モニュメントによる個性的な演出を行っています。
サーモンパーク	・千歳川および周辺の自然環境を生かし、洗練されたデザインのさけのふるさと館とゆとりある広場により構成されています。サーモンパーク前の川北通(国道337号)は、デザインされた街灯の整備、花壇による演出が行われています。
開基記念総合武道館	・広々とした青空公園内に、連続性のある個性的なデザインの開基記念総合武道館があり、周辺の自然環境と調和した景観をつくっています

## 面的景観（商業地・住宅地・工業地の景観）

## 【商業地】

千歳市には「仲の橋通り商店街」「新橋通り商店街」「ニューサンロード商店街」「錦町商店街」「新川通商店街」「北新商店街」「末広商店街」の7つの商店街振興組合と「駅前通振興会」があります。千歳市中心市街地活性化基本計画では、重点地区を南北が錦町商店街からJR千歳線まで、東西は千歳川から駅前通振興会を含む区域としています。

主要な商店街における商店数の推移は、平成6年から平成9年までで11.3%の減少となっています。幹線道路沿いに大型小売店舗が展開しています。中心市街地地区には、日常の買回りの販売を行う小規模店舗が集積していますが、歩行空間の狭さや店舗前の公的空間の狭さなどから、雑然とした雰囲気をつくりだしています。また、常にシャッターが降りている店舗や、空き店舗が点在しており、魅力ある賑わいづくりが課題となっています。

## 地域における景観形成の諸活動

花による演出	・フラワーポットや花壇による演出を行っています。
イルミネーション	・駅大通・グリーンベルトなどで冬期間イルミネーションによる演出を行っています。

## 【住宅地】

千歳市の住宅地は、既存市街地に比較的古くから存在する高密住宅地と、市街地の外縁部に計画的に整備された新興の住宅地に分けられます。

千歳市都市計画マスタープランでは、中心市街地地区の住宅地を「都市型住宅ゾーン」、その周辺および幹線道路沿いの住宅地を「都心周辺住宅地」と定めています。中高層住宅を主体として機能性と利便性の向上を図り、郊外型の新しい住宅地はゆとりある一戸建ての低層住宅による環境整備をめざし、土地区画整理事業による宅地開発・分譲が進んでいます。

また、泉沢地区の特別分譲地は、臨森林型の住宅地としてみどり豊かで良好な住環境を形成しています。

## 景観形成に関わる主な取組み

周辺環境との調和	・泉沢向陽台住宅地は、みどりに囲まれた高台に“人と自然の共生”をテーマとしてつくられ、自然豊かな住宅地となっています。
地区計画	・地区の特性にあわせルールづくりを行っています。

## 【工業地】

千歳市の工業地は、長都駅周辺の生産系工業地、泉沢および美々地域の多機能複合型工業地、弥生・寿周辺の物流・住居調和型工業地に分かれています。

特に、長都駅周辺と泉沢地域の工業地は、広い敷地の周囲に緩衝緑地帯を整備し、工場内の緑地とあわせて、良好な環境を形成しています。

## 景観形成に関わる主な取組み

景観に関する協定	・美々地区、オフィスアルカディア地区では協定を締結し、ゆとりあるみどり豊かな空間づくりを行っています。
地区計画	・地区の特性にあわせルールづくりを行っています。

6) 千歳市のシンボル  
市の木・市の花

 <p>シラカバ</p>	 <p>カツラ</p>	 <p>ハナショウブ</p>	 <p>ツツジ</p>
<p>カバノキ科の落葉高木</p>	<p>カツラ科の落葉高木</p>	<p>アヤメ科の多年草</p>	<p>ツツジ科の常緑または落葉低木</p>
<p>外側の樹皮が白色の美しい木です。 市内でも街路樹として見かけますが、特に支笏湖道路の並木は「シラカバ街道」として広く知られています。</p>	<p>昔から交通の手段として丸木舟に使用されるなど交通の要衝千歳と結びつきが深い木です。 また、ユーカラにもうたいこまれ、地名の「蘭越」もカツラの木が多くある所(=ランコウシ)に由来しているように、蘭越・支笏湖方面にかけて相当数の大木が自生しています。</p>	<p>新緑を背景に、水辺に紫・白・紫紅色などの花が咲き乱れる風情は日本の情緒にあふれています。 市内でも、ママチ川、勇舞川の河畔などで美しい花が見られます。</p>	<p>春から夏にかけて紫・白・紅色などの花が咲きます。 種類が多く、鉢植えや造園用に適し栽培管理もしやすく、家庭での植栽も見られます。 市内でも公園・緑地の植栽や街路樹として多く見られます。</p>

(資料：平成13年 要覧ちとせ)

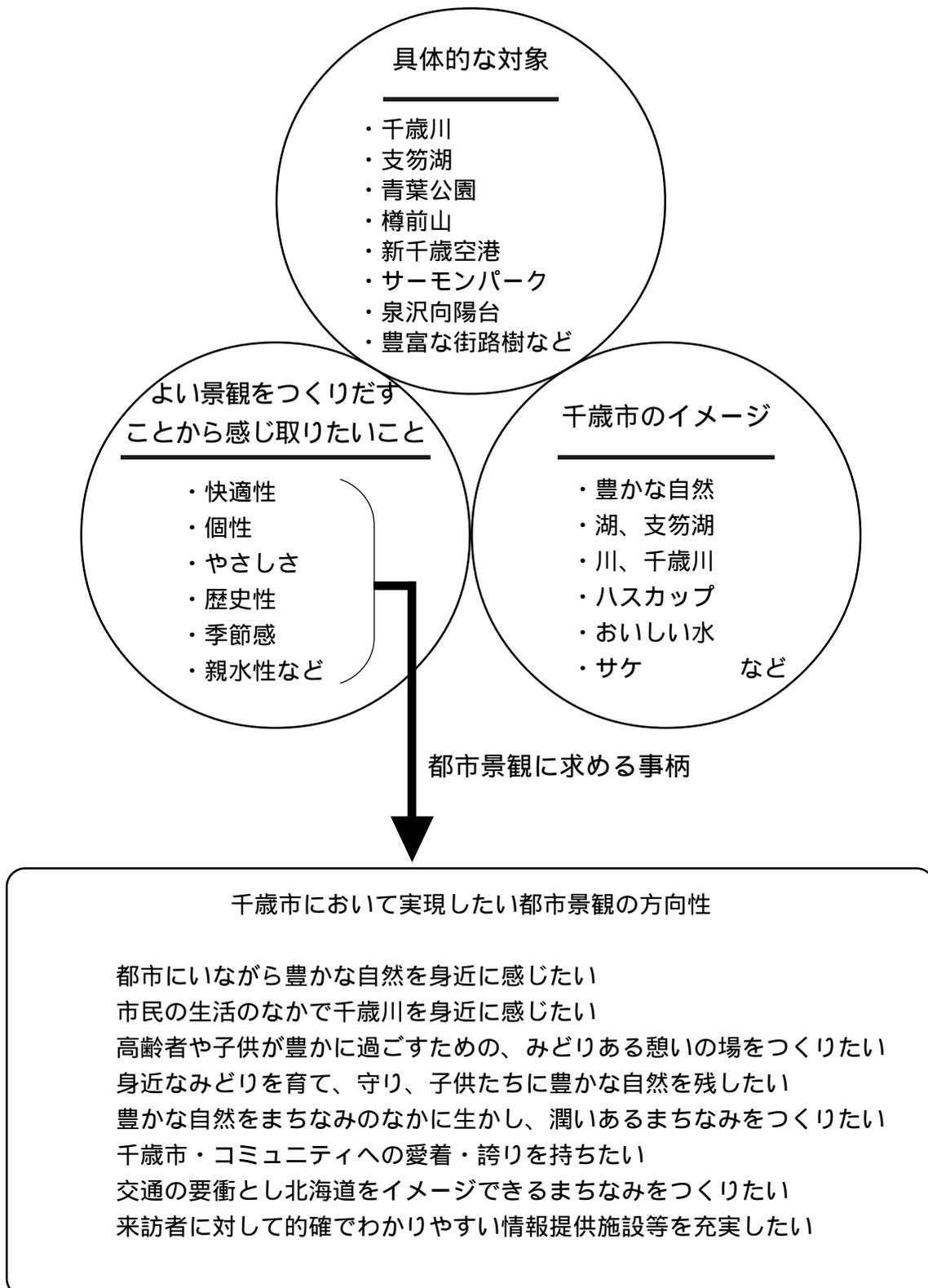
市の鳥・市の魚

 <p>ヤマセミ</p>	 <p>コウライキジ</p>	 <p>ヒメマス</p>	 <p>サケ</p>
<p>カワセミ科の留鳥</p>	<p>キジ科の留鳥</p>	<p>サケ科の淡水魚。ベニマスの陸封型</p>	<p>サケ科の海産硬骨魚</p>
<p>翼の色は、白と黒のまだら模様で頭に冠のような羽のある美しい鳥です。雌雄(つがい)で暮らし、切り立った崖に穴を掘って営巣します。 清流に生息する鳥で、千歳川の上流や青葉公園などで見られます。</p>	<p>平地や草原など地上に営巣し、市内でもよく見られます。 本来、北海道には分布していませんでしたが、昭和初期、朝鮮半島から移入し放鳥されてきたものです。</p>	<p>もともと支笏湖には生息しておらず、明治27年(1894年)に阿寒湖から支笏湖に移植されたのが始まりでした。 ヒメマスは「チップ」と呼ばれ、毎年6月からチップ釣りは初夏の風物詩となっています。</p>	<p>「千歳」という地名が生まれる以前から川にはたくさんサケが遡上し、この地に住む人々の貴重な食糧でした。 今も千歳川を遡上するサケは、捕魚車「インディアン水車」とともに秋の風物詩となっています。 地下観察室で川中のサケの遡上が見られる「千歳サケのふるさと館」などサケを主役とした施設が市内観光の一大ポイントとなっています。</p>

(資料：平成13年 要覧ちとせ)

## 2. 実現したい都市景観の方向性

千歳市の景観に関する市民アンケート調査やちとせ都市景観市民会議での話し合い等をふまえながら、市民が千歳市の都市景観に求めている事柄について整理し、千歳市において実現したい都市景観の方向性を示します。



3. 都市景観形成の基本方針（ちとせ都市景観ガイドプランより）

平成12年度に策定した「ちとせ都市景観ガイドプラン」では、景観形成の基本的な方針として、都市景観形成の基本理念、目標、4つの「景観」の基本方針を以下のように定めています。

1) 都市景観形成の基本理念

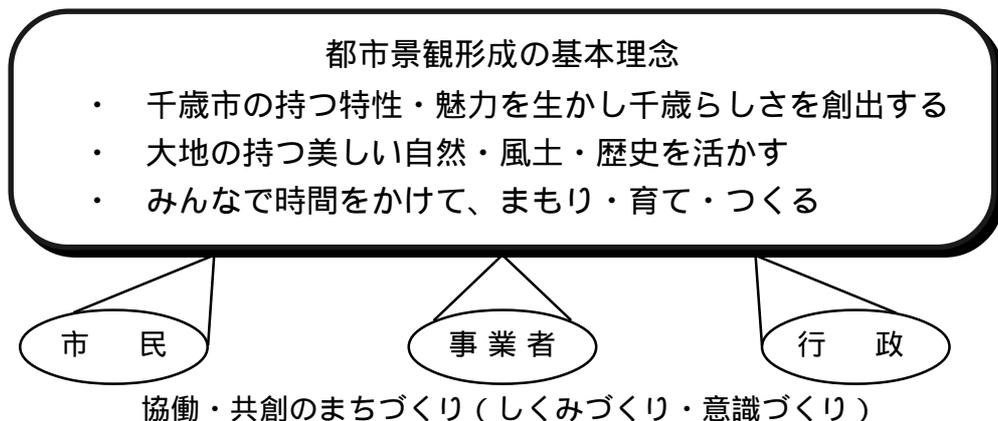
千歳市は、交通の要衝としての高い都市機能を持った国際交流都市である一方で、支笏湖に代表される雄大な自然景観や良好な農村景観を有しています。

また、郊外の住宅地や工業地では、都市計画に基づいて整然とした土地利用がなされ、みどりあふれる美しいまちなみを形成しています。

しかし、都心部では利便性や効率性を優先したハード面でのまちづくりを進める一方で、ソフト面での配慮が不足し、過度に剪定された木々や切り立った水辺の護岸などが要因となり、一部潤いややすらぎの感じられない都市景観となっています。

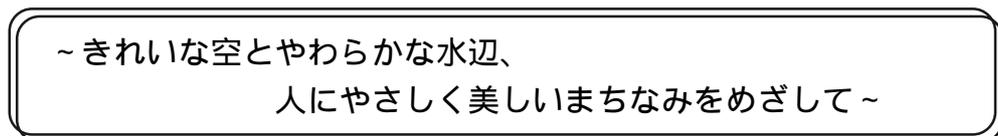
今後、私たちは、千歳市の貴重な財産である良好な自然景観、農村景観の保全に努めるとともに、人々の暮らしの基盤となる良好な都市景観を、市民・事業者・行政が協力しあいながら共通の意識のもとに、長い年月をかけて育み、将来の千歳市民へ受け継いでいく必要があります。

このことから、私たちは千歳市が持っている特性を生かし、市民・事業者・行政がみんなの力で、より美しく快適なまちなみをつくりあげていくための基本理念を定めます。



2) 都市景観形成の目標

千歳市における総合的な課題や現況分析の結果などをふまえ、千歳市民とともにめざすべき都市景観形成の目標を以下のように定めます。



千歳市が、交通の要衝として持ちあわせてきた高い都市機能性と、郊外に保全されている支笏湖や千歳川、良好な農村景観などの美しい自然環境を、今後のまちづくりのなかに生かし、より美しく快適なまちなみの形成を、千歳市民みんなの力でつくりあげていくことを表現しています。

## 3) 4つの「景観」の基本方針

都市景観形成の目標を達成するために、千歳市の景観要素のグループ化から得られた4つの「景観」について、それぞれの景観形成の基本方針を定めます。

## 都市景観形成要素のグループ化

都市景観の構成要素	都市景観の形成要素	都市景観形成要素のグループ化
軸 的 景 観	道路軸の景観	『みちの景観』
	河川・緑地軸の景観	
拠 点 的 景 観	公園・広場の景観	『拠点の景観』
	建築物・構造物の景観	
面 的 景 観	商業地の景観	『まちなみの景観』
	住宅地の景観	
	工業地の景観	

## 4つの「景観」の基本方針

水とみどりの景観	まちなみとの関わりを意識し、市民の身近な憩いの場として豊かで潤いのある景観づくりをめざします
拠点の景観	自然的要素を取り入れ、市民が日常的に集い、憩い、交流できるシンボル性の高い景観づくりをめざします
まちなみの景観	季節ごとの賑わい感と、通りごとの個性を感じながらやさしい歩行空間を楽しめるまちなみ景観づくりをめざします
みちの景観	北海道の空の玄関口である国際交流都市ちとせを意識したわかりやすく質の高い沿道景観づくりをめざします

## 【4つの景観を構成する要素】

水とみどりの景観・・・河川、緑地、街路樹など

拠点の景観・・・駅、サーモンパーク、公共施設などの人が多く集まる場所

まちなみの景観・・・商業地、住宅地、工業地など

みちの景観・・・道路、サイン、広告物など

#### 4. 都市景観形成地域別方針図

千歳市の景観特性、および千歳市において実現したい都市景観の方向性、千歳市の都市景観形成の考え方をふまえて、人の暮らしを豊かにするための千歳らしい都市景観形成を行う際の地域別方針図を示します。

都市部は、周辺の農村景観と豊かなみどりの自然景観に囲まれています。中心部には千歳川が流れており、川と川の周辺の緑地による豊かな景観が多くあります。

また、新千歳空港が都市部のすぐ近くにあること、東部・西部・南部の3方面に自衛隊基地が広がっていることが特徴です。

都市景観形成地域別方針図

千歳の都市景観づくりに取り組むために基本となるポイント

人の暮らしを豊かにする景観づくり

千歳市の持つ自然を生かす

魅力を生みだす

人と人との連携・協力を育てる

